

中川の公園 整備完了へ始動

80年前の計画で立ち退き!?



計画区域に取り付けられた、事業の施行を知らせる看板＝名古屋市中川区

名古屋市中川区で、戦後すぐに示された公園整備計画が、80年近くたって完了に向けて動きだした。計画区域には住宅地が含まれ、80世帯弱が立ち退く必要がある。市は防災面からも整備に理解を求めるが、長年、暮らしてきた住民からは戸惑いの声が上がる。

(四方さつき、写真も)

対象となるのは、市中川学校体育センター(同区下

之一色町)南側の住宅地1

・6鈔で、隣接する松蔭公園を拡張する形。昨年3月

末から用地買収が始まり、

すでに住宅の取り壊し工事も進む。この地域に住む高

齢の男性は「工事の音を聞いていると、やるせない」と話す。

市住宅都市局によると、

松蔭公園は1947(昭和

22)年、戦災復興計画の中で整備が決まった。5・4

鈔の用地が充てられ、一部

では同センターや公園が整備されたが、住宅地部分は

手付かずだった。

長期間未整備の公園緑地

計画を見直す一環で、市は

2007、17年度の2度に

わたって松蔭公園について

も再検討。面積は4鈔に縮

小されたが、住宅地は用地

の

80世帯対象 住民困惑



新たに公園整備が始まったエリア

の中に残された。

市は22年に開いた住民説明会で、決定事項として整備への流れを示した。長く

計画が進まなかったことについて、市の担当者は「戦

後、人口が急増し、復興計

画以外の公園整備が求め

られた。財政状況は厳しく、長期間、お待たせして

いるところが出ています」と説明。その上で、災害時の避難場所としても公園整備の必要性を強調する。

一方で、防災面の役割には疑問の声も。地元市議は「公園は庄内川下流の堤防下に当たり、大地震で名古屋港の水が逆流して水害が起これば、避難場所として使えない」と指摘する。

市は、測量や用地補償などの説明会を経て、土地と建物の査定を進める。立ち退き後の転居先は市から情報提供を受け、住民が決め

からの引っ越しは「ここ」と話す。

自宅の解体工事の見積もり中という男性も「住み慣れた地を離れて、どこに転居すればいいのか。もう出ていってこれとはっきり言われる時が来るまで、腹は決まらん」と悩む。

各地で見直し課題に

名城大都市情報学部の福島茂教授(都市計画)の話

公園緑地の長期末整備は全国的な課題だ。人口減少

社会に入らる中で、国も20

11年に都市計画法の運用

指針を改定し、各地で計画

の見直しが進んでいる。見

直しを経て計画を進める上

では、住民に事業の見直し

を示して将来設計を立てやす

くすることが重要。立ち退

き問題に丁寧に対応し、理

解を得る必要がある。